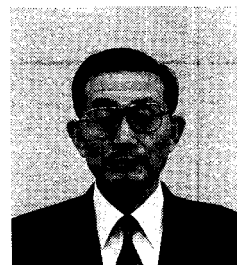


会長就任のご挨拶

東京工業大学 森村 英典



今回会長に選任され、その責任の重さゆえに、正直のところ困惑致しております。吉山前会長はじめ歴代の会長とは較べようもない小物の小生が会長の席に座っていたのでは、学会の発展を妨げるおそれすらあるのではないかと心配です。しかし、皆様のご信任をいただいて選任された以上、できる限りの努力をいたす所存ですので、会員の皆様のご協力を心からお願い申し上げる次第です。

日本オペレーションズ・リサーチ学会は昨年創立30周年を迎えました。ということは、小生は30年以上この学会にご厄介になっていたこととなります。その間、多くの先輩諸先生から沢山のことをこの学会の場を通して教えていただきました。そのご恩返しの意味からも、この学会の発展のためには、いささかなりともお役に立ちたいとは念じております。それで、今まで幹事・理事・監事・委員等として学会の仕事のお手伝いはさせていただいてまいりました。今回会長候補者としてご指名を受けたのもその延長上のことと思っております。つまり、会長候補者指名委員会のご意向としては、国際化や公的地位の拡大などいわば対外的な面での基礎はできたので、ここしばらくは長期的視野に立った学会運営の見直し等いわば内部固めをする時期と判断し、そのためには学会運営の雑事には比較的知識があるはずの人間を起用するのがよからうという判断をされたのであろうと推察しております。

ここ2～3年は、小生は学会運営の仕事にタッチしておりませんでした。その間、創立30周年記念事業の一環として企画された長期計画の策定に関し、ワーキング・グループの主査として、そ

の取りまとめの作業を仰せつかりました。そして、皆様から出された希望やアイデアを、ほとんど和集合の形で並べたうえ、将来の学会執行部に対し、それらのうちの実行可能な施策を実行してくださいという注文をつけて答申をしたのでした。ここまでは、気楽な作業です。しかし、実際に実行に移すには、人・金・時間などのさまざまな資源の制約のもとで、可能解、できれば最適解を求めていかなければなりません。そのご苦勞をすべて将来の学会執行部にゆだねたわけです。それゆえ、今回のご指名は「まず隗より始めよ」との「天の声」によるものかとも思っております。

コンドラチェフを持ち出すまでもなく、経済にせよ技術にせよ、外方的な時代と内方的な時代とをくり返しながらか発展をすると聞いております。学会活動にもそれに似た事情がありそうです。たとえば、若手研究者にとっては悲願ともいえる科学研究費の分科新設問題にしても、学術会議の研連という「外方的」成果をバネにして分科新設を実現したいのですが、そのためには申請数約300以上という実績が必要なようです。会員の皆様のご協力でそのような「内方的」成果が得られれば、次の「外方的」成果として分科新設が期待できるでしょう。こうして1歩1歩進みながら、OR学会が発展するよう努力いたしたいと思っております。

最後にもう一度会員の皆様のご協力をお願いして、会長就任のご挨拶とさせていただきます。